

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第8号—

令和4年5月23日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

津吉茶市の中止を受けて

今週末に予定されていた津吉茶市が、今年度も中止となりました。これで3年連続中止となり、本当に残念でなりません。津吉小学校では、総合的な学習の時間に、それぞれの学年で取組を進め、茶市1日目に「あいあいショップ」を出店するようにしていました。特に6年生は、茶市前日に、近隣の事業所に分かれて職場体験を実施し、そこで作製した商品を茶市で販売するようにしていました。

津吉茶市の参加は、津吉小学校の子供たちにとって、働く意義や喜びを感じるとともに、ふるさと津吉に対する愛着を深める機会でもありました。新型コロナウイルス感染症は、学校や家庭生活だけでなく、地域コミュニティにも大きな影響を与えようとしています。しかし、この局面を乗り越えるために親が、地域の大人が、知恵を絞り、協力し合う姿は、子供にとって素晴らしい手本となるにちがいありません。そして、そこに子供は「ふるさと」のぬくもりを感じ、我がふるさとを誇りに思うはずで

教育の基盤としての躰

時代や社会が大きく変わっても、『子育て』の中で変わらないもの、変えてはいけないものがあります。4年前の学校だよりも掲載しましたが、ある教育雑誌に掲載されていた記事を紹介し

我が国の伝統的な独特の教育方法として躰（しつけ）がある。躰は、裁縫の「躰縫い」と同じ意味である。縫い目が狂わないように、まず仮にぎっと縫い付けていくことを言う。その後、本縫いが行われ、仕立て上がると、躰糸は抜かれ、何もなかったように見える。

教育もそうである。一人前に育て上げていくために、まず躰縫いが行われる。「おはよう、ありがとう、ごめんなさい」の「あいさつ、謝辞、おわび」はその第一歩である。躰がすっかり身に付き、ごく自然に振る舞うことができるようになると躰糸は抜かれ、自分の判断で行動を選択し、世渡りするようになる。

ところが今般、この躰に異変が生じている。一つには、「躰縫いがされていない。」そのため型が崩れてよれよれになっている。二つには、「躰糸をいくつになっても付けたまま」で、一人前になれず、指示待ち人間となったり、保護者がついていないと外も歩けなかったりする。

価値の多元化した世の中で、躰は不要だ。それぞれが育てばよいという考えが強い。そうだろうか。価値感が多様化しているだけに、社会行動の共通の基盤が不可欠ではないだろうか。

職員紹介パート5

2年担任 ○○○○ 先生（本校○年目）

【○○町在住】

津吉の子供たち、保護者の皆様、地域の方々に、温かく支えていただきながら、楽しく過ごしています。子供たちに負けない体力で、今年も頑張ります！よろしくお願

